

授業科目名： 体育史	教員の免許状取得のための の 必修科目（選択科目）	単位数： 2単位	担当教員名：綿貫 慶徳 担当形態：単独
実務内容 （実務家教員の場合）			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項「体育原理、体育心理学、体育経営管理 学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）		
<p>「学位授与の方針」との関係</p> <p>本科目は、「学位授与の方針」のうち、以下に該当する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題が生起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概を持つこと。 ・個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけていること。 			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>（１）近代社会を中心として、体育・スポーツの歴史的展開を学んでいく。</p> <p>（２）日本の近代体育・スポーツに影響を及ぼしたヨーロッパにおける体育・スポーツ事情を理解する。</p> <p>（３）学校体育における兵式体操導入のねらいを理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>古代から近代にかけてのヨーロッパにおける体育・スポーツの歴史的展開、および、それが日本の近代体育・スポーツに及ぼした影響を講義内容の柱に据えて、体育・スポーツの通史を概観していく。通史の理解を踏まえたうえで、戦前、戦中、戦後の各期における日本の体育・スポーツの特徴と相違に関する見識を深めていく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第１回：体育史の対象と研究領域</p> <p>第２回：体育・スポーツの起源と発展</p> <p>第３回：古代の娯楽とスポーツ</p> <p>第４回：古典古代の競技と体操</p> <p>第５回：中世のスポーツ・身体修練</p> <p>第６回：近世の体育・スポーツ</p> <p>第７回：近代体育の源流</p> <p>第８回：近代体育の成立と展開（１）近代市民体育理論の形成</p> <p>第９回：近代体育の成立と展開（２）国民体育の成立と展開</p> <p>第１０回：近代スポーツの成立と展開</p> <p>第１１回：戦前期における日本の体育・スポーツの特徴</p> <p>第１２回：戦中期における日本の体育・スポーツの特徴</p> <p>第１３回：戦後期における日本の体育・スポーツの特徴</p> <p>第１４回：現代体育の源流</p>			

第15回：新しいスポーツ運動の展開
定期試験

教科書

岸野 雄三（編著）『体育史講義』大修館書店 1984年、

木村 吉次（編著）『体育・スポーツ史概論』＜改訂3版＞市村出版 2015年

参考文献

水野 忠文『体育史概論 - 西洋・日本』杏林書店 1987年

木村 吉次『日本近代体育思想の形成』杏林書店 1975年

岸野 雄三『体育の文化史』不昧堂出版 1959年

学生に対する評価 レポート評価（50%）、科目修得試験（50%）の割合で総合して評価する。